



育ちの芽

副園長 奥村 綾

6月も半ばに入り、子ども達の遊びの幅も広がってきたと共に、一つのことに集中して遊ぶ姿が見られるようになってきました。うきうきタイムに年少組も参加し、園庭では、異年齢で遊ぶ姿も見られます。色水作りコーナーでは、すり鉢で木の実や花びらをすり潰し、ペットボトルに入れてジュースを作ったり、ミニダムに溜まった水で、泥団子作りや水遊びなど、この季節ならではの遊びを楽しんでいます。

～絵画や制作物について～

絵画や制作活動について、各学年段階に合わせ、さまざまな道具や素材を使って、子ども達が興味を持って取り組める様に工夫しています。中には、今は描かない、作らないという子もいますが、強制はせず、今子どもが夢中になっていることを大切にしたいと考えています。ただ、全く経験せずにその活動が終わるということではなく、それぞれ自分のタイミングで取り組めるよう、何日もコーナーを設定しています。絵画、制作活動を通して、子どもの自尊感情を育てるため、大人の価値を子どもに教えるという観点ではない事、子どもが自然発生的に表現活動を行うことができるという事、遊びの中で自ら絵画、制作活動を広げることができる事を大切にしています。そのため、作品は、枚数や個数に差があります。たくさん持って帰ったから良いという観点ではなく、絵画や制作をいかに楽しんだかということに重点を置いて、子どもの作品を見てあげてほしいと思います。

～『たなばたまつり』について～

本園の「たなばたまつり」は、長年はカスタネットと歌、年中は楽器と歌、年長はキラキラ星と歌を発表するという流れが定着し、毎年5月の中旬頃から楽器に親しませたり、たなばたについての由来を伝えたり、笹飾り制作等も、先生主導で決めていましたが、今年度は、母の日参観でお伝えしたように、この“例年通り”というところを考え直し、子ども達の興味・関心に合わせ、子ども達と共に作り上げる、『たなばたプロジェクト』（プロジェクト型保育）に取り組むことにしました。

プロジェクト型保育とは？！

遊びや生活、身近な自然の中で、子どもが興味や関心を抱いていることからトピックスを見つけ出し、調べたり、深めたり、協同的に学んだり、様々な活動に発展させる子どもを主体とした保育。

5月中旬、年長組各クラスで『たなばた』についての話し合いをしました。年少、年中の時にたなばたの由来は十分に伝えていたので、覚えている子もいるだろうと思っていましたが、「たなばたって浴衣着て盆踊りするやつやろ?」「歌うったり、楽器したりした」など、本来の『たなばた』の意味を理解していない子どもが多いことに愕然としました。そこで、一から『たなばた』について、調べることにしました。職員室のたなばたの紙芝居や、図書室の絵本などを読んで、いろいろな由来を知ったり、天の川の星について子ども主導でいろいろと調べていきました。そして、7月6日に幼稚園でたなばたの行事があることを知り、どのような内

容にするか意見を出し合いました。

(しろ組) ・笹飾り・短冊・盆踊り・ゲーム・星釣り・星のトンネル

(みどり組) ・盆踊り・大きい紙芝居を作る・織姫と彦星に手紙を書く・短冊に願い事・七夕の歌をつくる
・花火・光る飾り・劇・お面・わたあめ・的当て・金魚すくい・アイス

(すみれ組) ・短冊 笹飾り・射的・盆踊り・七夕の歌(鈴、トライアングル)・紙芝居か絵本を作る

これらの意見をまとめるためには、全員での話し合いは難しいと考え、各クラス担当を決めることになりました。それぞれ興味・関心があるものは違うため、各クラスにはいろいろな係(畑、野菜係・アリの巣係・折り紙

係・昆虫係・紙ヒコーキ研究係、掃除係など)があるのですが、その一つにたなばたプロジェクトチームを結成し、そのメンバーで第1回たなばた会議を開きました。3クラスで出ている意見は取り入れることになり、盆踊り、短冊、笹飾りは決定しました。それぞれのクラスで出ている意見については、質問し合いながら、話し合いは進んでいきました。話し合う中で、人の意見をすぐに否定するのではなく、別の方法を一緒に考えたり、アイデアを出したりする子が多いことに感心させられました。

「たなばたの歌は歌った方がいいと思う」

「でも年長さんが歌える歌は、年少さんは難しいから、年長、年中、年少に分かれて歌った方がいいと思う」

「彦星と織姫が空から見えるように光るものがある」「光る飾りを作ろう」「どうやって作る？」

「トンネルは運動で使うやつがあるやん」

「あのトンネルは外で使ってるし、浴衣着てくぐったらよごれるやん。車とか通れる大きなトンネルがいい」

「ホールをトンネルみたいにしたらいいやん。幕閉めて暗くして星とか飾って。」

「花火は絶対にしたいけどできるかな?」「たなばたまつりには小さい子も来るから火が飛んで危ないわ」

「手で持つのではなく上から降ってくるみたいなのやつは?(おそらくナイヤガラのこと?!)」

「人が多いから無理やろ~」「じゃあ本物の花火は危ないけど、パラバルーンの時にした花火はできるやん」

「ほんまや~あの花火を上からぶら下げて花火みたいにしたらいいやん」

など、さまざまな意見が出て、話し合いは、約50分続き、決まった内容をみんなに伝えるということで、第1回目の会議は終わりました。

保育室に戻りみんなに伝えた時、上手く言えなかったり、少し話が変わっていたりもしましたが、なんとか内容の説明をすることができました。

次の日、たなばたまつりの行事名はどうか決めていなかったことに気づき、「たなばたプロジェクトの人は、ホールに集まってください。」と放送し、第2回緊急会議が始まりました。教師が言わなくても、「しろ組の人ここ集まってー。みどり組はここー。すみれ組はここー。」と点呼を取って円になり、『たなばたまつり』という名前を変えたい人?変えたくない人?と一人の子の声掛けで手を挙げ、全員一致で、名前を変えることに決まりました。なかなか行事名の案は出ませんでした。教師の力も借りながら、長い時間をかけて『たなばたほしランド』『たなばたつきランド』『たなばたよぞらランド』『みんなのたなばたプロジェクト』の4つの案にしました。保育室に戻って多数決を取り、しろ組は『たなばたほしランド』みどり組とすみれ組は『たなばたつきランド』と決定し、2つのどちらかに決めようとしていた時、一人の男児の「じゃあ合わせて『たなばたほしつきランド』にしたらいいやん」の一言で、行事名『たなばたほしつきランド』が決定しました。

年中・年少には、どうやって伝えようかと話し合い、年長児が年中・年少のクラスに伝えに行くことにしました。自分たちで書いたメモを見ながら、「七夕の笹飾りを考えて作ってください。」「盆踊りの練習を一緒にしましょう。」「歌は何にするか決めてください。」とお願いに行き、各学年、たなばたに向けての活動が始まりました。うきうきタイムの後に、みんなで盆踊りをしたり、笹飾りを作ったり、光る飾りの試作品でホールを暗くして光らせたり、少しずつたなばた活動が盛り上がってきています。当日に向けて、各学年で話し合い、アイデア

を出し合いながら進めています。この続きは、次号の『育ちの芽』でお知らせします。